

都市の渓谷、拠り所となる交番



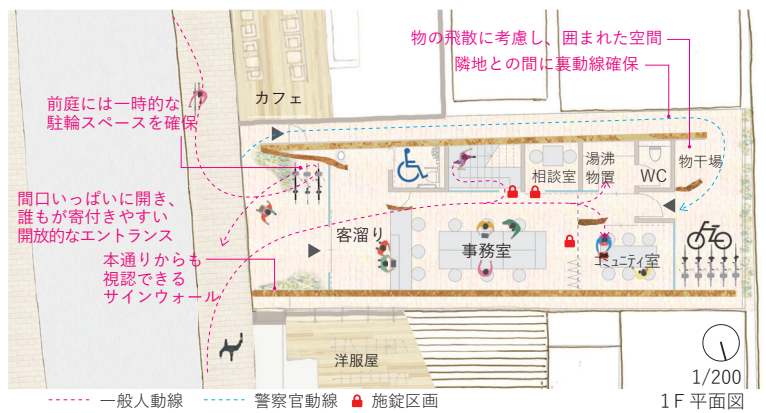
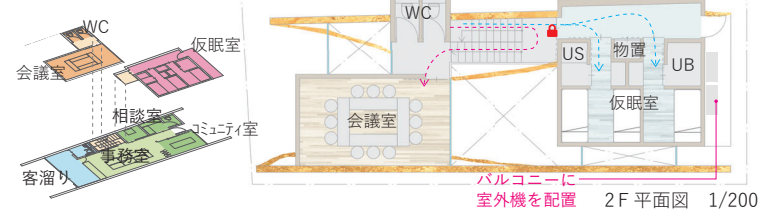
テーマ1 「親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり」

厳格さや機能性に加え、多面的な要素が必要な交番は人々の身近な存在でありつつ、力強さが必要です。私たちは平面、構造、設備などを統合的に計画することで、機能的な交番、快適な環境を実現することを目指します。

平面計画 - 警察官にとって便利であること

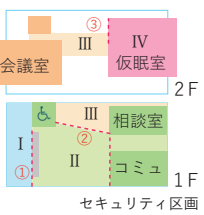
警察官が最も滞在時間の長い事務室を中心に諸室へ動線をコンパクトにした計画です。客溜りを含めた道路に面するスペースは建物内からの視認性を確保する平面形状とし、事務所を中心にワンルームとして、使用頻度の低いコミュニティ室は事務室と折戸で仕切ることにより多目的に利用できる計画としています。また、建物の奥に駐輪場（10台）、物干場、バルコニーには室外機を配置することで維持管理しやすい計画です。

スキップフロアでつながる諸室



セキュリティ計画 - 簡潔であること

不特定の人が立ち寄る客溜りでは、カウンター横で部外者の出入りを制限する1次セキュリティラインを形成し、コミュニティ室などの入り口に第2次セキュリティラインを明確に設定します。さらには、仮眠室の前室にも施錠区画を設けます。1Fにおいては、施錠する部屋同士が近接することで緊急出動時に最小限の労力で管理が可能な計画です。また、視線の抜けについては、地形のような壁で遮蔽部分を設計条件に合わせて調整できます。

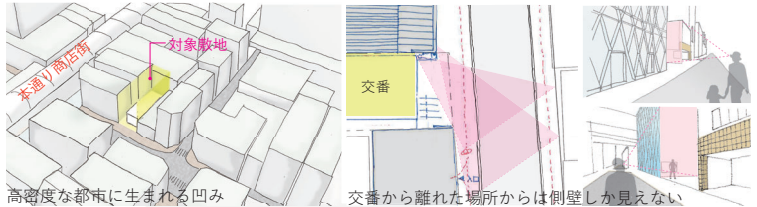


テーマ2 「周辺環境と調和した良好な景観の形成に資する魅力ある施設づくり」

地域の拠点として、親しみやすさや安心感を備える必要がある交番は開かれた公共空間とすることが重要と考えます。そこで、城下町ならではの都市の「凹み」を地形と捉え、緩やかな奥行き感と木漏れ日を感じられる「渓谷」のような空間を提案します。

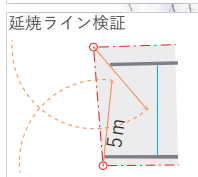
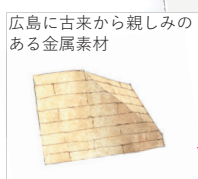
高密度な都市の「凹み」の課題

現在の交番は密な都市空間において、本敷地の特性上、空虚な「凹み」となっています。その「凹み」が視認性や建物への採光など、都市/人々と繋がりにくい要因となり、本来人々に安心感を与える存在の交番が都市に埋没しています。

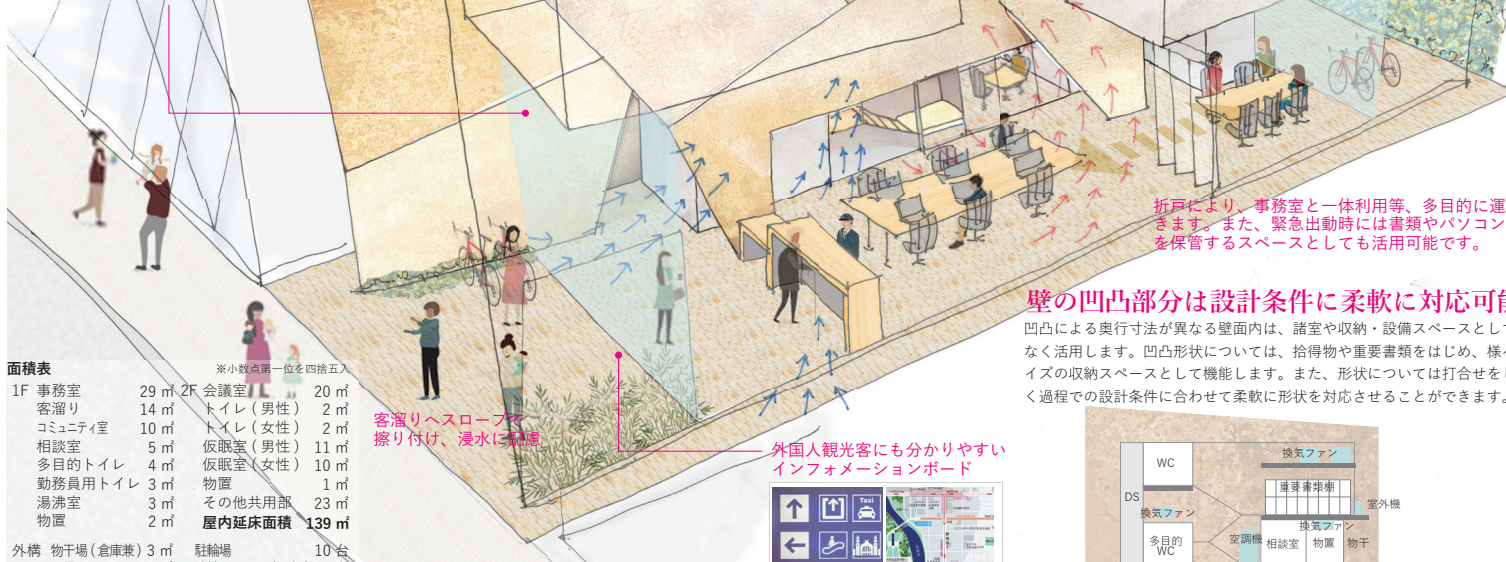


都市とシームレスに繋がる渓谷のような交番

都市空間に繋がるワンルームの交番には、地形のような壁が外部から内部へ視覚的に連続し、開放的な親しみやすさを生み出します。一方で、必要に応じて視線を制御し、一般人と警察官の適切な距離感を保ちます。また、その壁は必要な機能/設備を包含した装置としても働きます。



防火壁として機能し、ファサードの透明性を担保

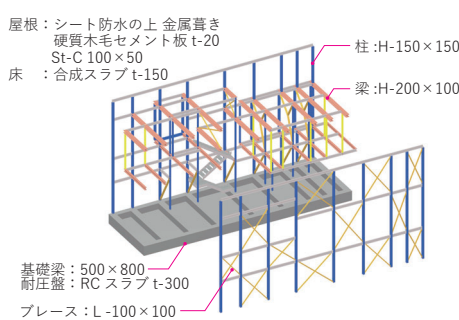


面積表 ※小敷点第一位を四捨五入

1F 事務室	29 m ²	2F 会議室	20 m ²
客溜り	14 m ²	トイレ(男性)	2 m ²
コミュニティ室	10 m ²	トイレ(女性)	2 m ²
相談室	5 m ²	仮眠室(男性)	11 m ²
多目的トイレ	4 m ²	仮眠室(女性)	10 m ²
勤務員用トイレ	3 m ²	物置	1 m ²
湯沸室	3 m ²	その他共用部	23 m ²
物置	2 m ²	屋内延床面積	139 m ²
外構 物干場(倉庫兼)	3 m ²	駐輪場	10台
設備/バルコニー	5 m ²	駐輪スペース(一般)	3台

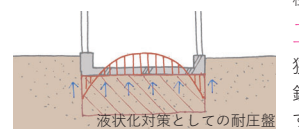
シンプルかつ安心・安全な構造計画

構造種別は鉄骨造とし、長辺方向はブレース構造、短辺方向はブレース付ラーメン構造としています。壁の位置ごとに柱を配置してブレースの数を確保するとともに、柱断面を小さくして室内を有効に利用できるような計画としています。また、2階床の一部は屋根梁から吊り材を配置しています。立体的に不整形な形状ですが、適切にブレースを配置し、安全に地震力を伝達できる計画とします。



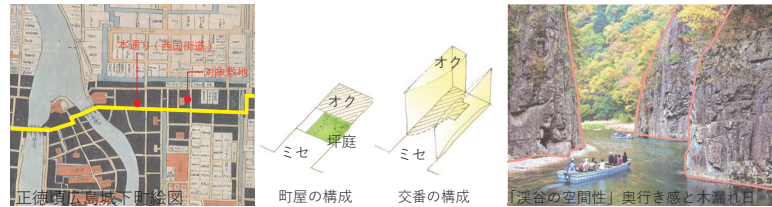
基礎の設計について

基礎は不動沈下に強いベタ基礎とします。本敷地の近隣のボーリング柱状図を参考にすると、表層が液状化する恐れがあるため、地盤改良を併用して対策を行います。



町屋が持っていた公共空間としての「凹み」を渓谷としてつくる

この「凹み」を開かれた公共空間とするために、平面的な「凹み」に対しては、城下町であった当地の町屋の「ミセ」と「オク」の構成を継承します。都市の立体的な「凹み」に対しては、「ミセ」と「オク」のバッファである坪庭の代わりに、奥行き感と木漏れ日を感じられる渓谷のような空間を作ります。

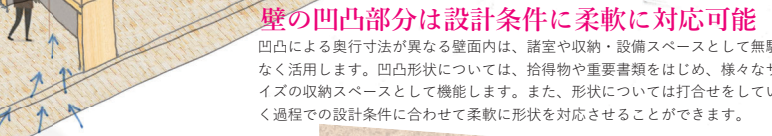


ガラス屋根にはセラミックプリントやルーバーなどの熱遮蔽措置をとります

折戸により、事務室と一体利用等、多目的に運用できます。また、緊急出動時には書類やパソコンなどを保管するスペースとしても活用可能です。

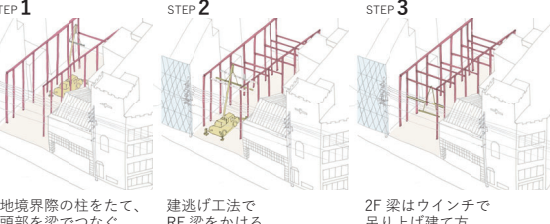
壁の凹凸部分は設計条件に柔軟に対応可能

凹凸による奥行寸法が異なる壁面内は、諸室や収納・設備スペースとして無駄なく活用します。凹凸形状については、捨得物や重要書類をはじめ、様々なサイズの収納スペースとして機能します。また、形状については打合せをいくつかの設計条件に合わせて柔軟に形状を対応させることができます。



狭小敷地での建方計画

高圧電線などの架線により、敷地外から吊込みが難しい状況の中で、前面道路を使用せずに1週間建方が完了する計画です。鉄骨柱を埋込柱脚とすることで、柱の建方時の仮設ワイヤー等を省くことができ、敷地内のみで建方が完結する計画です。

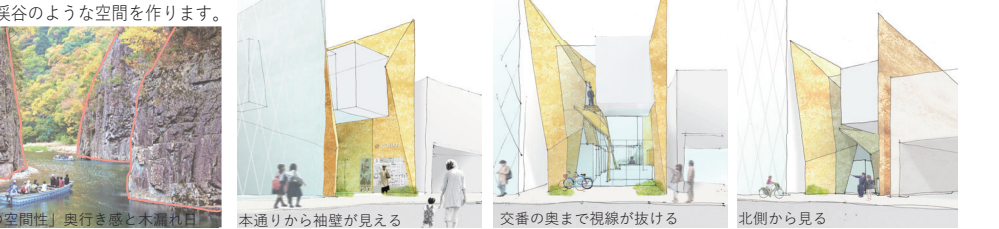


工事の乾式化を進め、工程短縮・仮設削減

狭小な敷地における構法の選定は重要です。鉄骨造とし、極力ボルト接合として現場作業の削減方法を検討します。仕上についても2次製品を極力使用し、工程短縮に努めます。

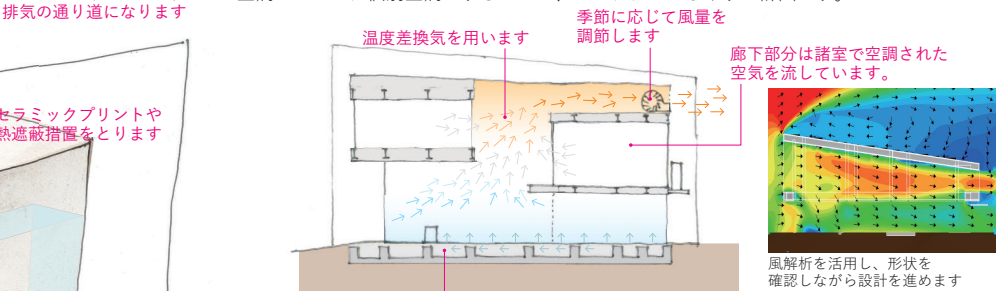
交番の存在を伝える力強く印象的な外観

地形のような袖壁は通りからの視認性が高め、人々の印象に残る力強い外観をつくります。前面道路から敷地の奥まで視線が抜けることで、親しみのあるエントランス空間とします。



環境計画 - 自然エネルギーを最大限活かす

自然エネルギーを最大限活用する計画です。空調を行わない中間期をできる限り延長することで、ランニングコストの低減を図ります。自然光を極力取り込みつつも、夏場の排熱を考慮した天井高さの設定になっています。空調については個別空調とすることで、メンテナンスしやすい計画です。

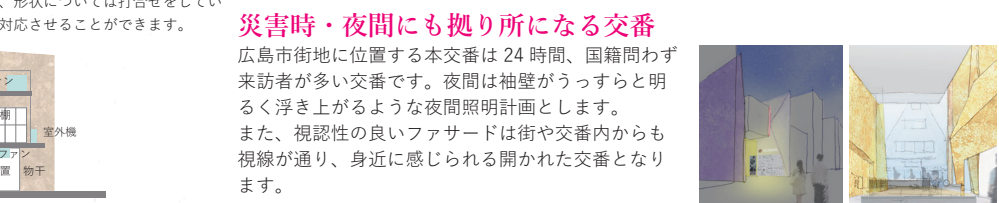
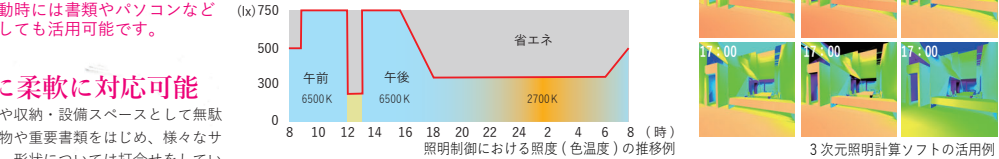


年間空調期間比較表

一般	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
本提案	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月

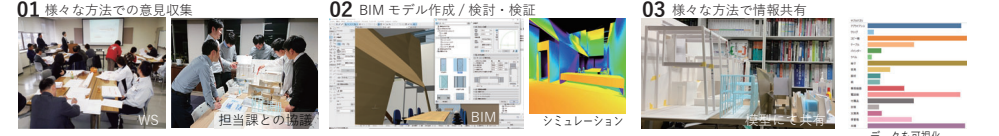
1日の空間の移ろいを感じられる執務スペース

方位、時間を考慮しながら自然光を取り入れることで空間の「移ろい」を感じ、働く人の心象的な閉塞感を緩和します。自然光の入り具合をシミュレーションで確認しながら形状を検討します。また、自然光に加え、エコサーカディアン照明制御を応用し、24時間の勤務形態に合わせた照明制御を行い、かつ省エネ化を図ります。



「広島」の歴史を若手に繋ぎ、円滑かつ迅速、行動力と柔軟性を備えた業務遂行体制

意欲的で行動力のある若手担当者（平均32.8歳）で構成し、丁寧ヒアリングで発注者の思いをくみ取る柔軟性も持ち合わせた体制です。また、市内に事務所があり、設備・構造担当者が社内にいる為、様々な事案に対して迅速な対応が可能です。創業70年を超える事務所の地勢・文化・歴史を含めた豊富な経験を融合し、高い実行力を担保します。ともにつくるプロセスを経て、完成後も長く使って頂ける建築をつくる方法論を持ち合わせています。



建設コストのコントロール

